

## 待機児童対策で区長が懇談

14日、区内の保護者の集まりである「保育園ふやし隊@杉並」のメンバー7名と田中良区長が待機児童の解消に向けて懇談を行いました。この懇談は、グループの保育施策拡充の要望書の提出に続いて行われたものです。待機児童ゼロを目指す思いは、グループも区も変わりありません。懇談の中では、今後の待機児童ゼロにむけた取り組みを共に協力して進めていくことが確認されました。

保育園ふやし隊@杉並は、区内の保育所に入所を希望する保護者の集まりで、メンバーは300人ほどになります。平成25年の活動開始から代々引き継がれるとともに、同様の活動は、首都圏の各自治体にも広がっています。このふやし隊からは、毎年要望書などが提出されており、今年も、14日午前10時30分、区役所を訪れた「保育園ふやし隊@杉並」の7名のメンバーからは、「認可保育所の入所に関する要望書」が区長に手渡されました。その内容は、認可保育所への希望が叶わない子どもが約1800人もいて、中には預け先が確保もできず、やむを得ず離職したり、子どもを親元に預けるなど家庭生活・人生設計に大きな影響を受けている保護者がいることから、1日も早く待機児童の解消を要望するものとなっています。



こうした考えは、田中良杉並区長の待機児童ゼロ実現の取り組みと軌を一にするものでした。しかし、人口の首都圏集中や女性の就労率の高まりにより、施設整備のスピードが追いつかず、目標とする「待機児童ゼロ」は実現できていません。待機児童の解消のためには、さらなる保育所整備が必要ですが、テレビ・新聞のニュースをにぎわしている市川市の保育所開設断念でもわかるように、保育施設の整備には多くの区民の理解と協力が必要です。ようやく整備用地や物件を探しても、反対運動によって整備できなかつたり、開園後に近隣の理解を得られずに、将来を担う子どもたちがのびのびと生活できないようでは意味がありません。

田中区長とグループとの懇談の中で、将来の杉並、将来の日本をリードしていく子どもたちのために、この危機的状況を一人でも多くの地域の方々に理解してもらい、スムーズな保育所整備に行政と保護者が力を合わせていくことが重要であることを確認しました。